

算数評価集について

1. この計算テストで何を測るのか

算数は、毎時間の授業で培われる基礎的な知識と技術の積み重ね学習により、習得されていきます。多くの外国人児童生徒は、母国で学習していた算数と日本の算数のカリキュラムの違いから、既に学習している部分でも日本のカリキュラムで学んでいないために授業についていけないということがあります。

この算数評価集はそのような外国人児童生徒の力を調べるテストです。このテストで今までの学習の不十分な部分を確認していただき、今後の指導の参考にしていただければと思います。

2. 内容

この算数評価集は、計算テストと計算テストチェック表と図形テストと図形テストチェック表で構成されています。

計算テストは【1】～【6】まであります。

計算テストは、小学校1年から6年までの計算力を測る内容となっています。それぞれの学年に対応した内容で、けいさんテスト【1】は小学校1年終了までの学習内容、計算テスト【2】は小学校2年終了までの学習内容となっています。

計算テストチェック表は、計算テストの内容を確認するチェック表です。計算問題の式の構造や注意事項を記載してあります。計算テストで間違った計算は、チェック表に記入していただき、その右欄にある式の構造や注意事項を確認することが出来ます。その部分が計算に対する学習の穴やつまずきということになります。

例) 計算テスト【4】 チェック表

1 たし算		(テスト被検査者 小6児童)			
	正誤	式	式の構造		注意項目
		0.5 + 0.1	暗算	小数 + 小数	
	×	0.8 + 0.3			小数位のくりあがり
		2.5 + 3.4	筆算	小数 + 小数	
	×	4.9 + 5.6			くりあがり2回
	×	3.5 + 7			小数 + 整数

このテスト結果の場合、この児童の計算能力のつまずきは、小数ではなくたし算のくりあがり
が不十分ということがわかります。

図形テストは11枚あり、小学校1年から6年までの図形の理解力をはかる内容となっています。計算テスト同様、各学年に対応した内容になっています。図形テストチェック表も同様に使用していただけます。

< 参考資料 > 計算評価集の試行結果について

平成 19 年 9 月から 12 月に試行版を実施しました。以下にそのデータをもとに結果をまとめました。ご参照ください。

A.小学生

1.結果	2.考察
けいさんテスト【1】 全体の平均点が 83 点と概ね正解率が高いが、6 年生でも 60 点以下のケースもある。	高学年でも、転入者には基本的な計算テストが必要。
計算テスト【2】 引き算のくりさがりの正解率が低い。	引き算は、くり下がりが大きなポイントになる。
計算テスト【3】 掛け算の 2 桁×2 桁の正解率が低い。 九九を覚えていても、間違える児童がいる。	掛け算は、九九と筆算の 2 つの大きなポイントがある。
計算テスト【4】 掛け算の繰り上がり、割り算の余りありの正解率が低い。	4 年で導入する小数の位取りよりも、3 年までに学習する基本的な計算力に問題がある。
計算テスト【5】 同分母分数の計算は正解率が高い。	高学年になると、教室での学習内容が身につけている児童が多い。

B.中学生

1.結果	2.考察
引き算、割り算の正解率が低い。 (特に割り算は計算テスト【3】【5】での正解率が低い。)	中学生で、取り出しを行っている生徒の計算のつまずきは、小学校 3 年と 5 年にある。
計算テスト【1】【2】【3】までの引き算は出来ていないのに、計算テスト【4】の引き算ができていている生徒がいる。	テストの該当学年に在籍していたかどうか、正解率に反映される。
計算テスト【4】の計算の順序では、() のある式のほうが正解率が高い。	中学では文字式などで () を使用することが多いため、計算の順序よりも () のあるないに正解率が左右されてしまう。
掛け算や割り算の基本的な計算は出来るが、計算テスト【5】の 2 の「わり進む」のように、計算が複雑になってくると計算ができない。	複雑な計算は、計算方法や技術を再度学習する必要がある。
計算テスト【5】【6】の分数の正解率は、個人差が大きい。	小学校 5 年以降の編入で、分数は学習していなければできないが、5 年以前に編入していれば比較的点数がとりやすい単元である。